

Bial社（ポルトガル）とライセンス契約を締結

当社は、平成25年4月、ポルトガルのBial社がパーキンソン病における症状の日内変動の治療薬として海外で開発中の、長時間作用型COMT阻害剤「Opicapone（一般名）」に関して、日本における独占的な開発販売権を取得しました。



Bial社

平成23年の「患者調査」（厚労省調査）によると、日本国内のパーキンソン病患者数は約14万1千人とされており、高齢化の進展により今後さらに増加することが予想されます。現在のパーキンソン病の主な治療薬であるレボドパ製剤は、病状の進行に伴って効果の持続時間が短くなる現象が課題となっており、COMT阻害剤はそれを改善するために使用されます。現在国内で使用されている既存のCOMT阻害剤は1日に複数回服用する必要がありますが、「Opicapone」はこれまでの臨床試験において1日1回の服薬により効果が示されており、服薬利便性の向上が期待されます。

中国におけるリマプロストに関する事業展開について合意

当社は、大日本住友製薬株式会社との共同研究により創製され、それぞれ「オパルモン錠」「プロレナール錠」という製品名で販売中の末梢循環障害治療剤「リマプロスト（一般名）」に関する中国での事業展開について、平成25年5月に同社と合意しました。

当社は、中国において腰部脊柱管狭窄症に対する適応取得を目的に開発を行い、販売承認取得後、大日本住友製薬株式会社の中国子会社である住友制薬（蘇州）有限公司に、中国での同剤の独占的販売権を許諾します。

中国において高齢化の進展とともに腰部脊柱管狭窄症患者の増加が予想されることに加え、同疾患においていまだ有効な治療薬が存在しない状況から、国内におけるリマプロスト事業提携を中国にも拡大することとしました。